

足利市教育委員会指定研究学校（人権教育）研究のまとめ

足利市立坂西北小学校

1 研究の概要

(1) 研究主題

互いに認め合い励まし合って生き生きと表現できる子どもの育成
～常に子どもに寄りそい、子どもの心を感じとり支えることができる教師～

(2) 主題設定の理由

本校学区は、自然に恵まれると同時に3世代同居の家庭が多く、住民の出入りが少ない地域である。保護者の中には被差別部落出身者がおり、我が子に同和問題を語る事が難しい状況である。また、教師も部落の子をよく分からないという面もあった。

子どもたちは大変素直で、楽しそうに学校生活を送っている。また、困っている友達に優しい言葉をかけることのできる子どもたちが多く見受けられる。しかし、教師との関わり、子どもたち同士の関わりの中で、時として、自分をうまく表現できず自主的に行動できないことや、子どもたちの内面では違った思いや願い、また不安や悩みを抱えていることが見えてきた。その中には、「現在、または将来、同和問題に不安や悩みをもつ子どもたち」がいることも考えられる。そこで、差別に負けない、より主体的に活動し、自分らしさを表現できることを展望して、『互いに認め合って生き生きと表現できる子どもの育成』が必要であると考えた。

そのためには、我々教師自身が「目の前にいる子どもの不安や悩み・願いについて、深く考える意識を強くもつ必要がある」との共通認識をもち、『常に子どもに寄りそい、子どもの心を感じとり支えることができる教師』を子どもたちとかかわる具体的な姿として、研究と実践を重ねていくことにした。

具体的な実践として、子どもが登校してから下校するまで、個別にかかわる場を設定し、その子をありのままに見ることに心がける。「何を不安に思っているのか、何につまずいているのか。」不安そうな子はもちろん、楽しそうに活動している子でも本当に何も悩みはないのか、本当に不安に思っていることはないのか。まずは目の前の子どもをよく見ていく。

そして、目に見える事実をとらえたら、支援は もちろん、何が原因なのか、その背景まで考える。分からなければ、教師から子どもに声をかけ、よく聴いていく。より深く、深く、その子その子の内面にまで目を向けていくことに意識をおき、常日頃、子どもの様子を観察し、子どもの心を感じとりようと努め、共に考え、子どもを支えていくことを大きな柱とした。

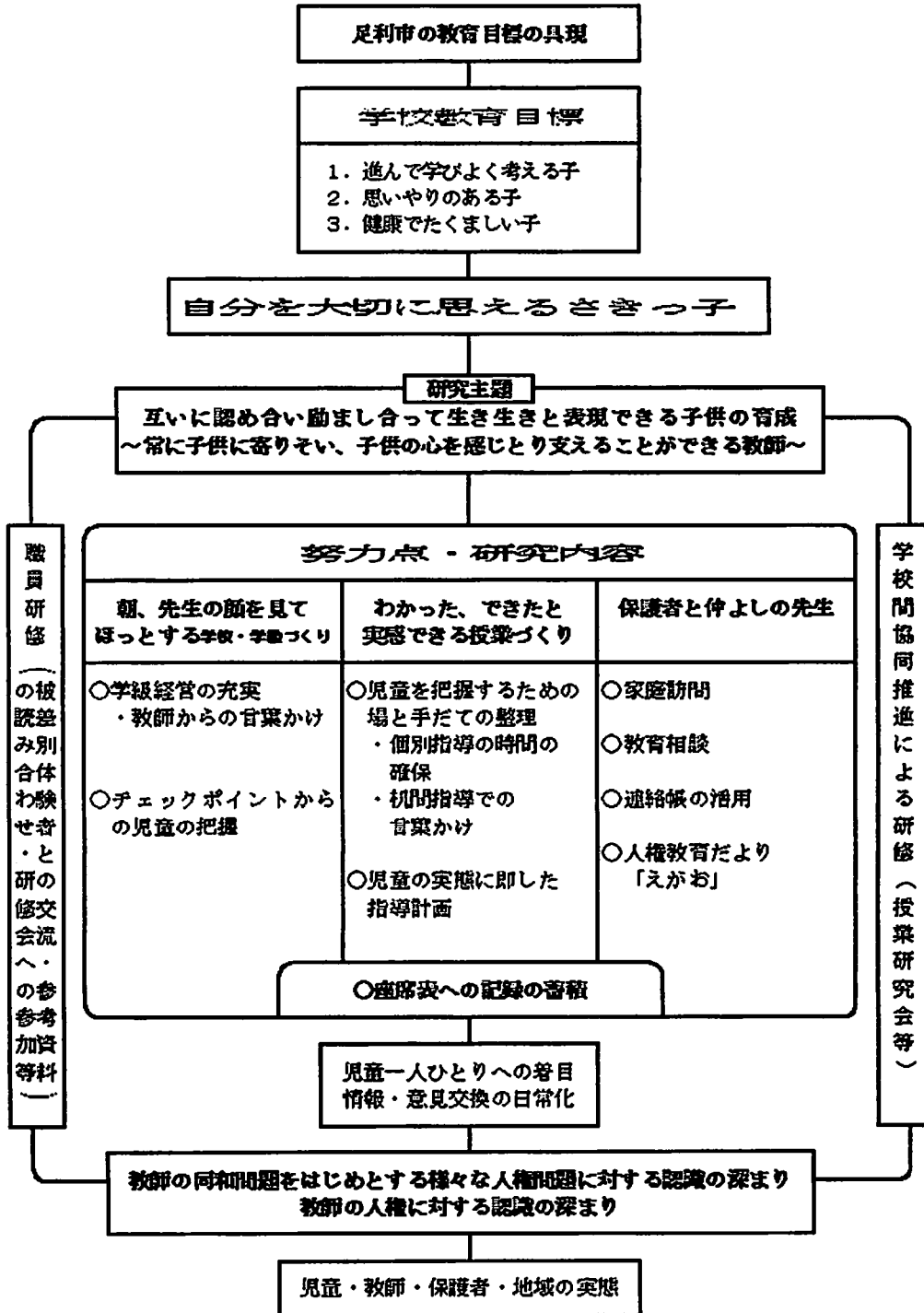
さらに、この研究を推進していくことで、本校が最終的に目指す教師像である『同和問題をはじめとする様々な人権問題について、児童、保護者、教師の三者で語り合うことができる教師』にせまっていきたいと考えている。



(3) 推進の3つの柱（視点）

- ◎朝、先生の顔を見てほっとできる学校・学級づくり（学級経営の実践）
- ◎わかった、できたと実感できる授業づくり（学習指導の実践）
- ◎保護者と仲良しの先生（保護者啓発の実践）

(4) 推進の全体構想



2 研究の実践内容

(1) 朝、先生の顔を見てほっとできる学校・学級づくり（学級経営の実践）

一人一人の子どもの実態を深くほりさげて理解するように努めてきた。目に見えた事実からその背景を幅広くとらえることに努力してきた。教師と子ども、子ども同士のよりよい人間関係をつくり、何でも相談できる人間関係の構築を目指した。

さき小人指教育チェックポイント

朝の集會	よむよむタイムでの一人一人の児童の様子を観察しているか
授業開始の時	表情や声の様子を感じとっているか。
休み時間	一人でぼんやりしている子はいないか、遊んでいるか。
学習の時	授業の始まりに、何かな不安な様子はないか表情を見ているか。 教時間等の時間も確保し、言葉かけを行っているか。 児童の様子をよく見守っているか。
給食の時	子どもたちのグループに入って会話をしているか。
活動の時	一層に働きながら、子どもたちの様子や表情を見ているか。
放課後	子どもたちの下校の様子を見たり会話をしたりしているか。
その他	他の先生方と協力して、子どもの様子を見ているか。 トラブルの時に、子どもたちの声に耳を傾けているか。 家庭での過ごし方などについて、保護者と話す機会を作っているか。



・意図的で穏やかな言葉遣いでのコミュニケーションの実践

思いこみはやめ、疑問に思ったりわからないことがあれば、教師から子どもに声をかけ聴くように努める。

・自分の意見を言える雰囲気、友達から認められる雰囲気作りの実践

教師が表情をよく見て話を聴く。間違いを笑わない、責めない態度に徹する。

・チェックポイントの活用

12の項目については教師が振り返り、児童との関わりを意識するために教卓に掲示し全職員で取り組む。

・座席表による記録の蓄積

子どもの実態を事実として幅広く蓄積することで、多面的にかつ深く掘り下げ把握し理解するように努める。

・職員会議や休み時間、打合せの時間等での情報交換と協議

情報交換の日常化を図る。

2-1

10/11 ~

2週間で1枚を基本に

10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20
10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30
10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9
11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19
11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29
11/30	12/1	12/2	12/3	12/4	12/5	12/6	12/7	12/8	12/9

・子どもとの具体的なかわりの中から、気付いたことをメモしていく

・見落としている子どもがいないか、どの程度かわりがもてたのか自己反省の材料とする

前から、子どもの表情や様子などを見ているもの

教師の子どもを見る目をみがく

日常の子供とのかかわりの実践（抜粋）

教師が子どもとの具体的なかかわりから何を見ようとし、何ができてきたのか。子どもの不安や悩み、心の奥底にあるものをつかもうと、教師自身がどう子どもや保護者とのかかわってきたのか、全職員がその取り組みを振り返りまとめことで、実践を深めている。

学級担任のかかわり

家庭訪問でA児の母親が「家は部落ですが、同和問題がわからない。」「子どもから聴かれてもどう答えてよいかわからない。」と話してくれた。「姉妹の中でA児は特に細かな点にも気がつくので、部落や同和問題について関心をもつかもしいない。聴いてきたら、先生が話してください。」とも言われた。日々、A児に何か変化はないのか見守り、また、言葉をかけている。少しでも不安に感じていることはないのか知りたいと思っている。

A児は音楽の授業の後、椅子をきちんとしてくれたり、給食の配膳台の片づけが忘れられているのを進んできれいにしたりしてくれる。教室が暗いと電気をつけてくれたり、発表に消極的な友達を励ましたりもしてくれる。所属した部活ではこつこつ努力を続け、その様子を家庭に連絡している。家庭でも掃除を中心に手伝いを進んで行うことができると母親から話を聞いた。



2学期に入り、国語の「わらぐつの中の神様」の授業で自分なりの考えをいくつももつことができた。しかし、ノートに消した後が多くあった。「授業を見ていた他の先生がよいこと書いてあったと言っていたよ。」と事後に声をかけると「自信がなかった。」と答えてくれた。「そうか。でも、自分の考えは残しておくことと振りかえることもできるからね。」と話し、消した文の内容も読ませてもらうことを伝えた。

また、算数の授業で「ここまで、わからない人はいませんか。」と声をかけると、A児は手を挙げてくれた。簡単な点を誤解していたので少しの説明で理解することができた。わからないことをそのままにしない態度を認めた。

授業でのかかわりが続いた放課後、残っていたA児が「友達になろうと言っている子がいるので困っている。」と話をしてきた。「良いことじゃないの。」と答えた。しかし、よく話を聴くと、以前自分がいじめられていたこと、いじめていた相手であり、どこか信用できないことを詳しく話してくれた。「何かあったらすぐ話すことにして仲よくしてみる。」と、言って帰っていった。

実際に子どもと話をしてみないと、わからないことばかりであると感じながら、「今日はどうか。」と毎日、声をかけるようにしている。

養護教諭のかかわり



9月から保健室掃除になったB児は、清掃時間の10分前くらいに保健室に来る事が多い。「まだ時間があるから、遊んできていいんだよ。」と言っても「もういい。疲れた。」と言う返事。最初のうちは、あまり話さず、私のパソコンの仕事を見ていたり、けがの手当てを見ていたりしているだけだったが、「好きな遊びは何?」「だれと仲よし。」などと話しかけていくうちに、少しずつ「もうすぐ、ピアノの発表会があるんだよ。」「よかったね。Bさんの妹もいっしょに発表会に出るの。」「2番目と3番目の妹は、ピアノよりも空手をやりたがってる。」などと家族のことや友だちのことを話してくれるようになった。

掃除は机・いすの上を水ぶきする仕事を任せているが、机の上にあるものは動かして拭くなど、気を利かせて拭いている。水道掃除もスポンジを使って隅々まできれいにみがいている。掃除が上手なので「家でもお手伝いをしているの。」とたずねると「家でもお掃除とかいろいろやってる。」ということだった。長女ということで母親にも頼りにされ、自分自身もしっかりしなければという意識が強いようだ。

以前、とげが刺さって取ろうとしたとき、大泣きをして痛がった。そんなに痛かったのか不思議だったが、担任の先生は「家で我慢している分、学校で甘えたいのかもしれない。」と話していた。

ある日「家のお父さんとお母さんはあまり仲が良くないんだよ。」と話してくれた。その時は、周りに他の友だちがいたため「そうなんだ。」と答えるだけにして、それ以上深くは聞かなかった。両親の問題を本人がどれほど認識しているかわからないが、今まで以上に母親や妹たちから頼りにされ、しっかりしなければと思っていることだろう。がんばりすぎて、B児の心が折れてしまわないように、話をゆっくり聞いたり、スキンシップをとったりして、B児が、ほっとできる時間がもてるように心がけていきたい。



(2) わかった、できたと実感できる授業づくり (学習指導の実践)

学ぶ力をつけ、生き生きと自分を表現するには、授業のねらいを達成することが必須条件である。授業の充実のために次の二つの面から研究を進めた。一つは学習の基礎となる国語の力、特に自分を表現するために必要な《話す・聞く》の力をつけていくことを中心とした教材研究、もう一つはどの子どもも安心して学習できるような、教師と子ども、子ども同士の人間関係づくりである。

授業研究では、日常のかかわりからとらえた子どもの実態を授業の組み立てや支援に生かせるよう話し合いを進めた。また、授業の中に個別にかかわる場を設定し、一人一人の子どもの不安や悩みに気付けるよう努めてきた。

・同和問題に直接関わる内容の指導

部落の子がいるという事実から同和問題を直接教材として扱う社会科を中心に全職員で研究を進めるとともに、人権に関する学習を実践する。

国語・交流研究の授業例

(4) 展開

◆研究副主題から

児童の活動	時間・時期	指導事項及び留意点
1. 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。 筆者の考えを話し取り、「平和のとりでを築く」とはどのようなことなのかを考えよう。	一斉 8分	○前時までの学習についてふりかえり、これまで読み取ってきた事実をみんなで見えるように確認する。 ○めあて確認のときに教材名を強調し、これに着目しながら本時の学習が深められるように発言する。 ◆本時の学習に不安をもっている児童がいないかどうか把握するために、めあてを確認しているときの表情をよく観察する。
2. 第12・13段落を読み、筆者の考えを読み取る。 ・下で書ける。 ・熟読しながら筆者の考えを思いのこころに書きとめる。 ・「人の心に平和のとりでを築く」とはどのようなことか考えて、グループで発表しよう。	一斉 個別 グループ 25分	○声に出して読むことに不安を感じていたり、文章の内容が分からなかったりしている児童がいないかどうか、質問紙をしてよく表情を観察する。 ○筆者の考えが述べられているところがなかなか見つけられない児童には、文末表現に着目させ、事実を伝えるときと自分の考えを述べるときとは違うことに気づかせ、筆者の考えが見つけられるように助言する。 ○「人の心に平和のとりでを築く」とはどのようなことなのか自分の視点で考えられるよう助言する。 ◆グループで活動することに「遠い」を感じている児童がいないかどうか、質問紙等をして態度の様子を観察する。 ○グループ内で一人一人が自信を持って発表できるように励ます。
3. 筆者の考えを受けて、筆者へメッセージを書く。 ・下に向けてメッセージを書く。 ・メッセージを発表する。	個別 一斉 10分	○メッセージが書きやすいようにメッセージカードを貸しておく。 ○なかなかメッセージが考えられない児童には、2で取った筆者の考えを確認させ、筆者の考えについて「はどう思うのかを理由もつけて考えさせる。 ○自分なりの言葉で考えることができた児童に発表をさせて、自信や充実感をもたせる。 ◆メッセージを考えることに不安を抱いていたり、意欲がもたない児童がいないか個別指導をして確認する。
4. これまでの学習をふりかえり、今後の学習への見通しをもち、	一斉 5分	○次時からは、世界に目を向けて自分なりに「平和」について考え発信していくことを伝え、その必要性について理解させる。 ◆本時の活動に満足できたか、次時に向けて不安を感じている児童がいないか表情をよく観察する。

とらえた実態を基に、それぞれの反応を予想しながら表情を見守る

クラスの人間関係や交友関係など、日々のかかわりから幅広い実態把握を基に場を設定する

子どもの顔をイメージしチェックポイントを設定するが、授業により新たな子どもの事実を把握するよう努める

授業研究での取り組み

- ・ 座席表の活用（子どもの内面の理解・支援のための事実の蓄積，補助簿の延長としてつける）

授業者は アンケート結果などの他に，児童の様子からみとることのできた事実を記入する。

授業での把握を記入する。

事前，事後に書けない児童について考え，かかわる材料とする。

参観者は つぶやきや表情，態度等，特に視点を設けず気づいた点を記入し，互いに応じた視点で，児童を理解しようとしたのか情報交換をし，より児童理解に努める。

全職員で本校の児童の指導にあたる意識を高める。

- ・ チェックポイントの活用

指導案の展開の中に位置づけ，全職員が共通して子どもをみる眼を鍛える。

分科会，協議での意見・感想

<教師のかかわり>

- ・ 昼休みにトラブルがあった二人に真っ先に机間指導をしていた。常に意識してかかわり「これいい？」「じゃあ当てるね。」等声かけしたので，その子はうれしそうだった。
- ・ 机間指導で，その子の気持ち，考えを少しでも感じとろう，聞き取ろうというかかわりをしていた。発表に対しても，「他に？」と言ってしまいがちだが，「まだある？」というそれぞれの考えを大事にしている言葉がつかわれていた。
- ・ 不安な気持ちでいる子と一緒に教科書を読んだり，目くばせをしたりなど安心感をあたえるかかわりをしていた。

<国語科の授業として>

- ・ 登場人物の気持ちを，文からおさえていたのでよかった。ねらいと実態から指導計画が作成してあり，読みとりの時間がしっかり確保され，ねらいも明確だった。
- ・ 指導の手だてを工夫し，ペープサートや動作化など，体を動かして気持ちを考えさせる活動を取り入れてもよかったと思う。
- ・ 読む力をつけるためには，日常的な読む指導をどう取り組んでいくかが問題となる。家庭学習なども役立て，説明文をよく読みこなしていた。
- ・ 考えを深めるために意見を出し合ってねり上げることは大切だが難しい。日頃からねり上げの授業をやっているかどうか，また，その前提として一人一人が自分の考えをもっているかどうか問われる。



(3) 保護者と仲良しの先生

(保護者啓発・教師の自己啓発の実践)

子どもの心をより深く感じとるために、子どものよさを伝え、また、保護者の願いや悩み・不安を聴く姿勢をもち続けた。教師から同和問題をはじめとする様々な人権問題についても話すことに努め、人権問題を三者で語り合うことのできる人間関係づくりを目指した。

家庭訪問での実践例 (16年度)

担 任：今年もお願いします。学校では、連絡帳でもお知らせしましたが、離任式で心温まる作文を上手に読むことができました。先日、1年生と里芋を植えた際は・・・

保護者：そうなんです。先日も3：30ごろ家に帰ると、大きい子に混ざって1年生が上がり込んでいて学校帰りに誘ってつれてきちゃったんです・・・

担 任：やっぱりお兄ちゃんだからですかね。

保護者：そうですね。私もついつい頼っちゃって。でも、気が短いから…。すごく子は気を遣ってくれるのだけど、やってやるよといってくれる。でも、片づけてないと「もういい。」となって、「今やるよ。」と言ってくれても「もう持ちちゃたからいい。」と意地を張っちゃって、父親に「だからだめだ。待ってやれよ。」と私がしかられちゃうんです・・・

担 任：坂西北小の人権教育ですが、読んでいただけましたか。

保護者：ええ、読みました。誰がよい事をしたみたいな事ですよ。

担 任：そうです。先ほどからお母さんからもお話があるように、一緒にC君のよいところをたくさん見つけ、連絡しあって、大切に成長を見守りましょう。ということなのですが・・・6年生では同和問題についても・・・勉強します。不安な事や、気をつけてほしいと思う事などありませんか。

保護者：特にありませんね。

担 任：前にお伺いしたときに、お父さんとKさんが同和問題について話していて、兄弟3人聞いていましたが、話した事はあるんですか。

保護者：同和問題についてですか？特にこういうところ、部落だよとかは話していないですね。きっと、聞いていても、わからないんじゃないかな。

担 任：お母さんはどうして知ったのですか。

保護者：同和ってこと？部落だと言うことはいつのまにかわかったんです・・・

担 任：今日は時間が限られているので、同じ質問になってしまうかもしれませんが人権教育担当の先生とまたお話を聞きに来てよいですか。

保護者：いいですよ。

担 任：C君の様子に気をつけて変化とかありましたら連絡を取り合いましょう。

家庭訪問の少し前に部落である事実を知り、家庭訪問で同和問題についてC児の不安や悩みを知るために保護者と同和問題について語り合うことができた。保護者が担任の声に気さくに答えてくれ、安心感と同時に使命感を強く感じた。以後、連絡を取り合い、保護者の了解の下中学校へC児、保護者と学校のかかわり等、引継を行った。

家庭訪問での実践例 (17年度)

ちょうど、祖母が外出するところだったのであいさつをして、日記から知り得た、祖母がけがで仕事を辞めたことについて話を聞く。実の母だからというような話をして。

担 任：日記に田んぼを手伝ったことが書いてありましたが、お米作ってるんですか。

担 任：お姉さんの時はそんな話、全然無くて。知りませんでした。Dちゃんはよく手伝うのですか。

保護者：そうですね。保育所のと時からよくやってくれて。仕事はよくやってくれて、1番内容もよくわかっています。・・・

担 任：・・・Dちゃんはチームで活躍するって聞きましたけど、そうなんですか。

保護者：よく努力してるんです。だから、なんじゃないかな。・・・

担 任：でも、その努力を認めてあげているお母さんがいるから、また努力するんじゃないですか。上のお子さんの時はなかなか認める話が出てきませんでしたよね。

保護者：初めての子で私も余裕が無かったし。姉妹でも全然違うから。心にゆとりも出ますよ。

担 任：自分も統合とかあって、なかなか目が届かなかったり、認め逃がしたり、申し訳なかったです。自分も子どもが小学校にあがって、ちょっと子どもを見る目がよいとこ見つけようになりました。どうですか、坂西北小学校の人権教育は？

保護者：恐いですよ。先生。子どもはよく見てるから。家では「えがお」をテーブルの真ん中におくんです。そうするとみんなで、この先生は誰だって話し合うんですよ。作ってる先生が誰かは知ってるんですけど、「あそこに〇〇先生がいた。こういうことを書くのは〇〇先生だ。」とか、本当に鋭いですよ。

担 任：それは知らなかったけれど、そんなに真剣に読んでくれてるんですね。

保護者：いいことだと思いますよ。よいところを見つけるって。大切ですよ。

担 任：人権問題についてはどうですか。話題に出たりしますか。6年生になると・・・。

保護者：憲法まで勉強するんですか。わからないなあ。父親は年が違うので考えが違うんです。・・・

担 任：・・・中学校でも人権教育に力を入れて、人権問題を直接取り扱った授業もやっているようですが。家では話題になりませんか。

保護者：学校のことは、話さないんですよ。反抗期で。全く話さなかったんですよ。4月ぐらいから少し変わってきて、学校では明るいつて先生からも聞かされているんです。・・・

担 任：何か不安や悩みなど問題が出てきましたら、聞くようにDちゃんに言ってください。

保護者：それがいいね。私もわかんないから。

担 任：人権教育は中学校でも力を入れてるみたいですから、また上のお子さんから何か情報があったら教えてください。

保護者：中学校は同和問題をやってますよ。私もぜんぜんわかんないから。先生に言ってもらおう。家も部落だけど同和問題のこととか。

担 任：何がわからないのですか。今の同和問題のことですか。同和問題そのものですか。Dさん部落出身なんですか。

保護者：そうですね。実際、それがもとで結婚が破談になった、なんて話もあるんですよ。

保護者：私の同級生は男の子は2人とも結婚していないし。女の方は出て行っちゃうし。子どもが減るばかりですよ。・・・

担任：同和問題を親と先生で話す会というのがあるんですが。出席しませんか。

保護者：行きます。行きたい。絶対自分のプラスになるから。自分が知らない子どもから聴かれても何も答えられないから。聴きたくても年寄りほどんど先に死んでしまうし。誰にも同和問題が聞けなくてもやもやしていたんです。

担任：授業で同和問題を扱っても、誰かいるかもと見ているより、Dちゃんはどうかなと見ている方が絶対よいと思います。変化があったら、お母さんとも連絡が取れるし、逆もあります。話していただいて本当にありがとうございます。また詳しくお話を伺いたいのですが。

保護者：こっちが知りたいんですよ。でも、なんか先生に話しちゃって、すっきりした。

担任：ありがとうございました。

「もしかしたら同和問題への不安や悩みがあるのではないか？」と思って担任は家庭訪問に出かけた。話を聴きたいと思っていたところ保護者から、話をしてもらうことができた。

家庭訪問後、学校に来ていただき、保護者の不安や悩み、学校への期待を聴いた。教師の同和問題に対する認識を深めるための現職教育にも一緒に参加してもらい、同和問題について語り合うことができた。保護者が「同和問題について知りたい。」ということもあり、6年生の教科書を使って、校長、担任、児童生徒支援教員をまじえ、勉強会を開いた。その中で話題に出た「橋のない川」のビデオを見たい、との希望があり、視聴覚ライブラリーで借り、視聴している。その感想を交換し合うことを中心に2回目の勉強会を開く予定である。

被差別部落出身保護者の話（抜粋）（現職教育16年度・17年度）

保護者・話を聞いてもらえる機会をつくっていただいて感謝しています。話したいと思っている人はもっといると思います。実際、他の人の悩みを聞いたことはないし、自分の悩みを聞く人も近所でもないと思う。私が同和問題について知ったのは20歳のとき結婚しようと思った相手の親に「誰と結婚してもかまわないがあいつとだけはだめだ。」と言われて自分の親に八つ当たりをしてしまった。「どうして話しておいてくれなかったのか。（部落）と知っていれば恋愛などしなかったのに。」「子どもが苦しんで楽しいか。」とまで言ってしまった。しかし、自分が親になってみるとなかなか言えないものだ後悔している。

聴いてもなかなか話してくれないこともあるが、聴かなければ話してはもらえないことを改めて感じた。また、「聴いてほしい。」と待っている保護者がいることがわかった。

そこで、同和問題に対する認識を深めるための現職教育に、被差別部落出身保護者に参加していただいた。これからも全職員で交流を継続し、かかわり深めたいと考えている。

人権教育だより「えがお」を通しての実践例

子どものよさは、見ようとしなければなかなか見えるものではないので、子どもと多くかかわって見つけだす。教師の子どもを見る目を鍛えるため、また、学校の全職員で取り組むこの姿勢を子どもや保護者に伝えるために、広報紙「えがお」を発行している。保護者の情報も積極的に掲載するようにしている。

第10号 人権教育だより 11月7日

えがお

2年生の保護者のYさん、Sさんよりうれしいお便りがありました。要約みずこ身つけてくださった「さきっこ」のステキなえがおです。

夏祭りの時貸付けた さきっこ

夏祭りの時、今年卒業したお兄さんたちが「入さくなつたなあ」と、声をかけてくれました。息子もおぼえてもらってとてもうれしかったです。あいさつや感謝かけがさることできるのはとてもいいですね。すでにみなの中学生になっていました。

保護者 Yさんより

夏祭りの日、クレープ作りを自分から選んでお手伝いをしてくれた2年生のIさん、Kさん、Sさん、6年生のOさん、Tさん、Sさんありがとうございました。一生懸命にお手伝いをしてもらったので、無事にクレープを仲間達に作ることができました。クレープはとってもおいしくできました。

保護者 Sさんより

第13号 人権教育だより 11月20日

えがお

5年生のY君が休んでいたのに、いつも靴箱のところでY君の登校を気にしていた1年生のNさん。風邪で欠席が続いていたY君に会って一言、「風邪だったん。」Y君、「うん」休み明けに声をかけられてY君はうれしかったそうです。友達っていいですね。

(M先生より)

まだ、むし習字が読める朝のことでした。足をかがしているK先生が種蒔室までくつをはきかえようとしていました。でも、荷物や杖がしゃまでも大変そうでした。そこへ、2年生のTさんがずっと近づいてきて、K先生のつわばきを取り出し、はきやすいように向きを合わせて置けてあげました。「おもしろい」というさわやかな風が吹いた気がする光景でした。

(K先生より)

連絡帳を通しての実践例

今日の担任式で、校長先生に心こもった内容の作文をしっかりと読んで、涙をこぼさず嬉しそうに読んでくれました。お褒めいただき、涙をこぼさず嬉しそうに読んでくれました。お褒めいただき、涙をこぼさず嬉しそうに読んでくれました。

お便りにありがとうございます。先生が一年間お世話になりました。お礼を言いたいです。お礼を言いたいです。お礼を言いたいです。

家庭科調べ

子どもの不安や悩みを把握するために「何でも話せる人間関係」を保護者につくろうとした。そのため、連絡帳により、担任の捉えた「よさ」を知らせるようにした。そして、気になることは積極的に保護者と連絡をとりあうように努めている。



授業参観後の保護者の感想より

- ・楽しそうに授業をしていて安心しました。明るく元気という印象を受けました。先生の話に耳を傾け興味を持ち自然とみんなの机が前へ前へと移動していく様子が見れ、私も授業に参加してみたいと思えました。
- ・子供たちの目線で授業が進められていてわかりやすく、みんな、先生の話をよく聞こうとする態度でした。何か問題があるたびに一人一人、丁寧に対応してくれていると思います。
- ・先生のかかわりで一番良かったのは、笑顔で子供たちとかかわっていることです。いつも笑顔でいるということは、大変なことですが、これからも先生の素敵な笑顔で「ほっとする学校・学級」をつくってってください。

3 研究成果と今後の課題

(1) 研究の成果

子どもの心を感じとり支える教職員の姿

- ① 子どもをより深く感じとるために、子どもの事実を少しでも詳しく、深く、知ろうと努め、その子その子の内面にまで目を向けていくことを強く意識しながら子どもたちと向き合うようになった。
 - ・座席表、チェックポイントの活用。記録の蓄積がなされている。
 - ・積極的なかわり、教師から言葉かけを行っている。
 - ・子どもの表情をよく見ながら授業を行っている。

- ② 実態を日頃の様子から幅広くつかみ、教科等のねらいを達成するために、教材の選択や発問の工夫など焦点化した教材研究をするようになった。
 - ・実態把握を単元の指導計画から本時の展開計画に役立てている。
 - ・机間指導をきめ細かく行い、言葉かけをしている。
 - ・座席表に子どもの実態を記入し、活用している。

- ③ 被差別部落出身の保護者と同和問題や子育てについて語り合えるようになってきた。
 - ・自分の同和問題に対する認識を改めて確認することができた。
 - ・同和問題について話しを聴いて欲しい保護者がいる事実がわかった。
 - ・同和問題を話すことで安心感が増し、より信頼関係が深まることがわかった。
 - ・授業の内容によって保護者と連絡をとるようになった。

新たにみつけた子どもの姿

- ・授業で、自分の意見を発表する子が増えてきた。
- ・病気やけがで休んでいた友達や教職員に優しく言葉をかける子が多くなってきた。
- ・穏やかな語調で話す子が増えてきた。

新たにみつけた保護者の姿

- ・家庭訪問などで人権問題について語り合える保護者が多くなった。
- ・連絡帳や「えがお」を通じて子どもの「よさ」を伝えてくれる保護者が増えてきた。

(2) 今後の課題

- ① 思いこみではなく、目に見える事象、把握した内容を整理し、子どもに教師側から聴いていくことを継続し、実践を続ける。目の前の子どもの不安や悩みをいち早く感じとることができるよう意識を高めていきたい。
- ② 子どものかかえる人権問題について決して一般的な人権問題としてひとまとめにできないことを強く意識し、その子の背景をよく見ていく。
- ③ 道徳や国語科の学習をとおして、人権を大切にする学習活動や教科における人権教育のあり方について授業研究してきたが、他教科・他領域へも広げていきたい。
- ④ 被差別部落出身保護者の方との交流を継続させる。そこで得た事実を元に部落の子にかかわる。その繰り返しにより交流の深化を図る。また、中学校とのよりよい連携に努めたい。

【研究同人】

校 長	小野 耕一	教 諭	丸山 能保 (研究主任)
教 頭	小池 正勝	"	内田 祥弘
教 諭	山崎 恵世	講 師	小林 結加里
"	安西 達夫	"	椎名 理恵
"	久保 恵子	主 任	長谷川 順子
"	小林 洋子	技 能 員	塚越 恵一郎
養護教諭	長谷川 貴子	"	上村 正
教 諭	北澤 譲	心の教育相談員	山中 光子
"	藤村 真由美	心の教育相談員	小林 厚子
"	中野 公二	学びの指導員	樋下田 幸子
"	早川 理恵		

(16年度)

教 頭	山口 順子
教 諭	渡邊 友紀子
"	尾羽林 亜矢
講 師	齋藤 昌美
講 師	川上 景子
講 師	大手 真富果
主 任	源田 弘子

(15年度)

校 長	車塚 己喜雄
教 諭	大塚 千枝
講 師	齋藤 香
"	中村 裕子
"	大木 麻衣子
"	齋藤 裕美子